

進路たより

NO. 2

今年度、第3学年の主任及び進路指導担当となりました、高橋晋作と申します。M中4年目となりました。でも、平成元年から4年間勤務しておりましたので、通算でいうと8年目になります。昨年度も第3学年の進路指導担当を務めていましたので、連続の3学年担当となりました。どうぞよろしくお願いいたします。実は私の子どもの入学式で2日間お休みしておりましたので、3年生の生徒に話をするのは、実質、今日が初めてでした。笑顔があったり、挙手して発言したり、とっても真剣に考えてくれる学年だなあと、さわやかな気持ちになりました。この学年に加わって、本当によかったです。

伝えたいこと

今度の担当する先生は、どんな考えをもっている人なのかということは、生徒のみならず、保護者の皆さんにとっても、大きな関心のひとつでしょう。わたしも、高校生と中学生の2人の子どもを持つ親として、おんなじです。「今度の先生も、“いい先生”だといいね。」そんな話しが、食卓を飾るのです。それだけ、人との出会い、教師との出会いというのは、人生においても大きな出会いのひとつになり得るということでしょう。わたし達、教員は肝に銘じなくてはなりません。

わたしは、わずか1年間という付き合いですので、なかなかわたし自身のことを、伝えることは難しいかもしれません。ただ、3年生の生徒達には、人としての“思い”を伝えたい、そう考えているのです。

《学年集会で話をしたこと》

数年前、東京へ出張に行ったときに遭遇した話です。地下鉄に乗りました。地下鉄はですね、もう座るところが一つもないくらいの、大変なラッシュでした。椅子はもちろん、立っている場所もないほどなんですね。修学旅行で経験した人は？と聞いたら、1/3 くらいの人が、手をあげてくれました。

ある駅でのことです。ひとりのおばあちゃんが乗ってきたんです。見た目で80歳は越えていましたね。両手に大きな荷物を持って電車に入ってきたんです。もちろん、座るところなんてないんですよね。

でも、世の中にはね、優先席 (Priority seat) っていうものがるんですね。両手に荷物いっぱいのおばあちゃんは、その席を探したんです。ドアの近くにありました。でも、そこには女子高校生2人が必死にメール打ちをして座っているんです。両手に荷物いっぱいのおばあちゃんの姿を見ても立とうとはしません。これが、女子高生の彼女達が言う、座る自由っというやつです。

でも、そのおばあちゃんは、2人の前に立って、何ひとつ言いませんでした。1つ2つと駅が過ぎていきます。両手の荷物は、電車の揺れとともに、重さが増していつているようです。いくつかの駅を過ぎたときです、奥の人ごみの間をぬって、小学生らしい少年がやってきたんです。「おばあちゃん、ぼくの席に座ってよ。」って。

そこで慌てたのは女子高生。さすがの、女子高生もばつの悪そうな顔をして立ったんです。



わたし、少しほっとしましたよ。

話はこれでおしまいですが。このたよりをお読みになっている皆さん、一体、このおばあちゃんは、そのあと、どこの席に座ったと思いますか？

一部始終見ていたわたしは、こう考えていました。

おばあちゃんは、どこの席にすわることが、幸せなのだろう？って。そして、わたしが出した結論はこうです。

やはり、女子高生が座っていたドアの近くで、出入りの楽そうな場所にある優先席こそが、おばあちゃんの幸せなんだと。ところがその後、このおばあちゃんがとった行動を目の当たりにして、自分の人間としての未熟さを実感することになるのです。

おばあちゃんはですね、よっこらよっこら人ごみをかきわけて、奥の少年の椅子に腰掛けにいったんですよ。

わたしたちは、自分の見方で物事を考えていることが多いんです。おばあちゃんは、優先席に座るべきなんだとか……。でもね、おばあちゃんにとっては、女子高生がいやいやながら立った席に座るより、すすんで空けてくれた席に座るほうが、とっても気持ちよかったに違いないんです。

わたしは、おばあちゃんの見方に立てなかったんです。

わたしがこの1年間、伝えたいのは、このいろいろな見方で考える、とうこと。

現在の中学生在が“こころ”に抱くほとんどが、人間関係のトラブルですね。人と人とが、上手に交じることができない。だから、学校にも行きたくない。何もしたくない。時には、死にたくなる。

今日、あなたの隣の人は、どんな表情をしていましたか？



自分からだけの見方だけでなく、相手の見方を考えてみましょうよ。きっと、今まで考えなかったような答えが見えてくるはずです。左の図でトレーニングしたじゃないですか。ひとつの見方でなく、新しい見方をもったとき、新しい答えが見えだすんだって。

6つ目の駅で、おばあちゃんは降りました。車内は、相変わらずの人ごみ。奥のほうから降りるのは、大変です。

次の瞬間、入り口にあふれ返っている人たちみんなが、今度は、一度電車から外に出て、おばあちゃんが降りやすいようにしてくれたのです。女子高生も一緒に……。

少年のたったひとつの行動で、車内の中に『やさしさ』という風が吹き渡りました。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp